

〈書 評〉

江藤文夫（東大病院リハビリテーション部）著

脳卒中のリハビリテーション

— 基礎から実際まで —

水野雅康（川崎医科大学リハビリテーション科）

本書は正に題名の通り、脳卒中のリハビリテーションについて、基礎的な事から実際的なことまで網羅した教科書である。すなわち、一般の臨床医であろうとリハビリテーション医学を専門とする者であろうと、また、PT、OT、ST、看護婦等すべてのリハチームの方々に本書は非常に有益な参考書となるであろう。脳卒中のリハビリテーションについて、本書ほど要領よく、体系的に書かれた本は多くはない。その構成は、I：リハビリテー

ションの目標と流れ、II：脳血管障害の障害度、III：起居移動動作の回復—臥床から歩行まで、IV：日常生活の自立、V：慢性期の治療とリハビリテーション、の5つの章からなっている。全体的に表や図が多く非常に分かりやすくまとまっている。II章では、リハビリテーションにとって非常に大切な重症度の評価方法が要領よく書かれている。III章では、実際の種々の訓練の具体的方法も詳しく書かれており、また、V章では、脳卒中の合併症に対する取り組み方の

基礎から実際まで、例えば薬剤名、用量もしっかりと書かれており、臨床場面にすぐに活用でき、非常に有用である。

医学的リハビリテーションはしばしば、“予防医学”、“治療医学”に続いて“第三段階の医学”と呼ばれている。もちろん“予防医学”や“治療医学”にも医学的リハビリテーションの要素が含まれている事は言うまでもない。そして、医学的リハビリテーションの処置の大部分は、患者の最初の医療に責任を持つ医師によってなされるので、第一線の医療機関で日夜努力されている一般の臨床医の方々にも本書をお勧めしたい。（B5，頁124，¥4,000，1988，新興医学出版社 刊）